

厚生労働行政推進調査事業費補助金 障害者政策総合研究事業（精神障害分野）  
災害時の精神保健医療に関する研究  
平成27年度～29年度 分担研究総合報告書

被災地の飲酒問題に関するアンケート調査  
研究分担者 松下 幸生 国立病院機構久里浜医療センター 副院長

研究要旨

岩手県、宮城県、福島県において被災者を支援している保健師、生活支援相談員等の支援者756名を対象としてアルコール関連問題に関するアンケート調査を実施した。アンケートの内容は、アルコール関連問題の増減・問題の内容、飲酒問題への対応で困った経験の有無、アルコール以外の精神的な問題、避難所での飲酒やアルコール飲料の持ち込みに関する意見、仮設住宅でのアルコール問題について相談を受けた経験の有無とその内容、アルコール関連問題の介入、予防に役立ったことである。アルコール関連問題の増減は、震災からの時期によって異なり、震災発生から避難所閉鎖までの期間は変わらないとする回答が多かったが、避難所閉鎖以降の期間では増えたとする意見が多くなった。増えた理由としては、震災による生活や住環境の変化を挙げた者が多かった。地域別にアルコール関連問題の増減をみると、岩手県では変わらないとする意見が多い一方、宮城県では増えたとする意見が多かった。増えた理由については震災による生活や住環境の変化を挙げるものが3県とも多いが、福島県では補償金などの収入を理由に挙げるものが他の2県より多かった。アルコール関連問題の内容としては、朝や昼間からの飲酒、飲酒による健康への影響、酔って他人とケンカなどの問題を挙げた者が多かった。アルコール以外の精神的問題については、震災発生から避難所閉鎖および避難所閉鎖から震災1年後までの期間は、不眠、不安、うつ、持病の悪化が増えたとする意見が多いが、震災1年後から調査時点までの期間では、うつ、不眠に次いで、認知症を挙げるものが多かった。避難所での飲酒に関する意見としては、避難所では飲酒すべきではないとする意見が過半数であり、避難所へアルコール飲料を持ち込むことについても支援物資としては持ち込むべきではないとする意見が半数以上であった。仮設住宅でのアルコール問題については、全体では約60%の支援者が経験しており、朝や昼間からの飲酒や飲酒による健康被害を相談されたものの割合が高かった。仮設住宅でのアルコール問題の相談で困った経験は全体で約50%が認めており、関わり方がわからない、地域住民の苦情への対応をその具体的な内容として挙げる者の割合が高かった。

支援者の意見としては、アルコール問題が増えたという印象が少なくない。また、その対応については、アルコール問題に対応した経験が乏しいことから困難に感じられていると考えられた。これらの結果を災害後のアルコール関連問題への対応や予防について検討する材料としたい。

研究協力者

杠 岳文：国立病院機構肥前精神医療センター  
院長

阿部祐太：国立病院機構花巻病院 精神保健福祉士

水野由香里：釜石市保健福祉部健康推進課

福田貴博：国立病院機構琉球病院 医師

佐久間寛之：国立病院機構久里浜医療センター  
精神科医長

藤田さかえ：国立病院機構久里浜医療センター  
医療社会事業専門職

長 徹二：三重県立こころの医療センター医長

原 敬造：医療法人社団原クリニック 院長

奥平富貴子：医療法人東北会東北会病院医師

鈴木俊博：医療法人東北会東北会病院精神保健福祉士

三浦敦子：医療法人東北会東北会病院看護師

A. 研究目的

災害発生後に被災地で飲酒量が増加してアルコール関連問題が発生することは国外の過去の多くの災害やその調査が指摘している。我々は東日本大震災のアルコール関連問題に及ぼす影響を検討するために平成24年度から3年間にわたって岩手県、宮城県及び全国の一般住民を対象とした調査を実施したが、アルコール関連問題の明らかな増加は示唆されな

った。しかし、一般住民調査では回答率がやや低いことや、問題を抱えた住民は回答しないことが考えられるため、住民調査結果から震災によるアルコール関連問題への影響はないと結論することには慎重になるべきと考えられた。

そこで、本研究は被災地における飲酒の問題について地域の支援者を対象としたアンケート調査を実施し、問題の実態や効果的予防法や対策について検討することを目的とする。

本研究の特徴は以下の点である。

1) 被災地におけるアルコール関連問題の状況について、相談の窓口である地域住民支援者を対象に調査を実施することにより、より正確に実態を把握できる。

2) 避難所における飲酒についての意見等、今後のアルコール関連問題についての対策や予防方法に関する資料を提供する。

## B. 研究方法

### 1) 対象

平成24年度から3年間にわたり実施した障害者対策総合研究事業「被災地のアルコール関連問題・嗜癖行動に関する研究」研究班では、岩手県、宮城県の被災地で研修等の支援活動を行い、その効果を検証した。その際に関わった地域の支援者に協力を依頼し、さらに研究協力者が福島県で行った研修の参加者を中心にアンケート調査への協力を依頼した。アンケートは平成27年3月から11月にかけて依頼し、12月までにすべて回収した。

### 2) アンケート調査

#### 調査票

調査票は本報告書の最後に掲載する。アンケートは無記名で、性別、職種および経験年数、主な支援担当地域、被災地における勤務開始時期について回答を依頼した。アルコール関連問題については、件数の増減、具体的な問題の内容、アルコール関連問題への対応で困った経験の有無とその内容、アルコール以外の精神的な問題で増加したものの、避難所での飲酒やアルコール飲料の持ち込みに関する意見、仮設住宅でのアルコール問題について相談を受けた経験の有無とその内容、アルコール関連問題の介入、予防に役立ったことについて回答を依頼した。

#### 解析方法

得られた回答はコンピューターに入力して解析を行った。解析には統計解析パッケージSAS (version 9.2) を使用した。平均値は t 検

定、割合の比較はカイ二乗検定を用いた。

(倫理面への配慮)

本研究は独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター倫理審査委員会の承認を得て実施した。調査対象者には書面にて研究の目的や方法について説明し、同意の得られたものから回答を得た。アンケートは無記名のため、個人情報には限られているが、得られた情報は厳密に保管して、本調査の関係者以外が取り扱えないよう配慮し、情報漏洩には十分な対策を講じた。

## C. 研究結果

### 1. 回答者の性別、職種、勤務年数

性別が記載されていない8名、県名が記載されていない1名を除いた有効回答は、男性182名、女性574名、合計756名より得られた。県別では岩手県が284名、宮城県は409名、福島県は63名と宮城県が最多である。回答者の担当支援地域の分布を表1に示す。また、職種の分布を県別に表2に示す。

回答者全体の平均勤務年数は $10.9 \pm 10.5$ 年だが、県別にみると岩手県が最も短く、福島県の回答者が最も長い。県別の勤務年数の分布を表3に示す。

### 2. 被災地での勤務開始時期について

被災地での勤務開始時期について、震災前から、震災後1年未満から、1年以上2年未満から、2年以上3年未満から、3年以上経ってからに分けて、その分布を表4に示す。

震災前から勤務していた者は120名であり、全体の15.9%であった。割合が最も多いのは震災後から1年未満からで281名(37.2%)であった。

### 3. アルコール関連問題の増減について

支援者からみた震災前後のアルコール関連問題の増減について下記の3つの期間に分けて質問した。震災発生から避難所全面閉鎖までの期間、避難所全面閉鎖から震災後1年までの間、震災1年後からアンケート回答までの期間。期間ごとに集計した結果を表5に示す。

#### 1) 震災発生から避難所全面閉鎖までの期間

“わからない”と回答した者がいずれの県においても最多である。次いで、全体では“変わらない”と回答した者の割合が高い。

震災前から被災地で勤務していた120名に限って集計すると、岩手県では“変わらない”と回答した者が45.0%と最も多く、次いで“増

えた“が”22.5%、“わからない“が”20.0%の順であった。宮城県では“わからない“が45.5%”と最も多く、次いで“変わらない“25.8%、“増えた“18.2%の順であった。福島県では“増えた“44.4%、“わからない“33.3%、“変わらない“22.2%の順であった。

#### 2) 避難所閉鎖から震災1年後までの期間

全体の割合は表5に示す通りである。“わからない”という回答が最多だが、次いで“増えた”とする回答が多かった。上述のように震災前からの勤務者に限って集計すると、岩手県では“変わらない”52.5%、“増えた“と”わからない“がそれぞれ22.5%であった。宮城県では、”増えた“が46.2%と最多であり、“わからない“35.4%、“変わらない“15.4%の順であった。福島県では、“変わらない“44.4%、“わからない“33.3%、“増えた“22.2%の順であった。

#### 3) 震災1年後から調査時点までの期間

全体では“増えた”と回答した割合が最多で、“変わらない“が次ぐ。震災前からの勤務者に限って集計すると、岩手県では“変わらない”50.0%、“増えた“40.0%の順であり、宮城県では、“増えた“が58.0%と最多であり、“わからない“、“変わらない“がそれぞれ18.8%であった。福島県では、“変わらない“55.6%が最多で、“わからない“、“増えた“がそれぞれ22.2%となっていた。

以上をまとめると、震災発生から避難所閉鎖までの期間は変わらないとする意見が多かったが、避難所閉鎖以降の期間では、増えたとする意見が多くなり、特に震災1年後からは、特に増えたとする意見が多くなっていた。

#### 4. アルコール関連問題が増えた理由

アルコール関連問題が増えたと回答した者にはその理由に関する意見を尋ねている。表6に示すように、時期を問わずに増えたと回答したものは全体の48.2%であり、ほぼ半数であった。特に宮城県では過半数だが、岩手県、福島県では4割弱の割合である。

増えたと回答した者に対してその理由を選択肢から複数回答で選んでもらったところ、震災による生活や住環境の変化を挙げた者の割合は全体で84.1%と最多であった。次いで、震災前からの問題の再燃や悪化を挙げた者が62.9%であった。理由については地域差が認められ、補償金などの収入を挙げた者は福島県で多く、周囲の見方の変化を挙げた者は岩手県で最も多かった。

#### 5. アルコール関連問題の内容

表7に各期間に分けて、具体的な問題に関する意見の回答を得た。回答は選択肢から複数回答可で選んで回答してもらった。

震災発生から避難所閉鎖までの期間では、朝や昼間からの飲酒と回答した割合が最も高く、次いで飲酒による健康への影響が多かった。この期間の問題については地域による違いは認められなかった。

避難所閉鎖から震災1年後までの期間では、朝、昼間からの飲酒が最多で、健康への影響が次に多い点では前の期間と同じ傾向であるが、宮城県では酔って他人とケンカすると回答した者が多く、福島県では朝、昼からの飲酒が少ないなど県による回答率の違いがみられている。

震災1年後から調査時点までの期間では全体的に問題があったと回答している割合がそれ以前の期間より増加していた。具体的な内容については、健康への影響という回答が最も多く、朝・昼からの飲酒、家族とのトラブル、経済問題、酔って騒ぐと続いている。地域による回答率の違いも以前の期間よりはっきりとみられるようになっていた。

#### 6. アルコール関連問題への対応で困った経験

表8には震災後にアルコールに関連した問題への対応で困った経験の有無について質問し、経験があったと回答した者には具体的な内容を尋ねた結果を示す。対応に困った経験は岩手県を除いて過半数に経験がある。具体的な内容としては、どのように関わってよいかわからなかった、相手から問題を否認されて困った、地域住民からの苦情の対応に困ったと続いた。

#### 7. アルコール以外の精神的な問題について

次に、アルコール問題以外の精神的な問題で増加したものについて質問した。回答は全ての回答者から得られたが、医学的な問題のため、より正確さを期すために、医療従事者または精神医療に関連した職種を選択して集計した。選択した職種および対象者数は、保健師203名、精神保健福祉士51名、心理士18名、医師7名、看護師74名、およびこれらの職種を含む複数の職種をあげた18名の371名である。

回答は複数回答で問題を選んでもらう他に、わからないという回答を設けている。集計の際はわからないと回答した者を除いて集計した。

集計結果を表9に示す。震災発生から避難所閉鎖までの期間では不眠、不安、うつ、持病の

悪化の順に多く、地域による違いは不安・パニックが宮城県、岩手県で多かった他は有意な差は認められなかった。

一方、避難所閉鎖から震災1年後までの期間では、不眠が最多であることは同じだが、うつが多く、不安がやや減少していた。地域による違いは、PTSDが岩手、宮城県で多く、福島県では少ないという点である。

震災1年後から調査時点までの期間では、うつが最多であり、不眠が次ぐ。他の期間では少なかった認知症が増加している。パチンコなどの賭け事による問題は全体としては多くないが、地域による違いが明らかであり、福島県、宮城県で増えたという意見が有意に多かった。

#### 8. 避難所での飲酒に関する意見

震災発生後、避難所では一部の者が飲酒して周囲に迷惑をかけるといったトラブルがあり、一部の避難所では飲酒、喫煙について自主的にルールを設定していたため、支援者に意見を求めた。その結果、表10に示すように地域を問わず避難所の中では飲酒を禁止すべきという意見が過半数であった。

#### 9. 避難所へのアルコール飲料の持ち込みに関する意見

阪神淡路大震災の際の避難所への支援物資にアルコール飲料が含まれており、議論になった経緯を踏まえて、避難所へのアルコール飲料の持ち込みについて意見を求めた。表11に示すように、基本的にはアルコール飲料を持ち込まないとする意見が過半数であった。

#### 10. 仮設住宅でのアルコール問題について

次に仮設住宅でのアルコール問題について相談された経験の有無を尋ねたところ、表12に示すように宮城県では70%以上、福島県では50%近く、岩手県では40%を超える支援者が相談を受けたと回答している。相談を受けた回答者にはその内容を選択してもらったところ、朝・昼間からの飲酒が最多で、飲酒による健康への影響が続いた。相談の内容は地域によって割合が大きく異なっているが、全般的に宮城県が高く、岩手県で低い傾向である。

#### 11. 仮設住宅のアルコール問題の相談で困ったこと

アルコール問題の相談については経験の乏しい支援者も少なくないと思われることから、どのような事で困ったかを尋ねた。表13に示すように困った経験のある支援者は宮城県で63%、岩手県で40%、福島県で35%と多くの支援

者が相談されて困った経験を有していた。その内容について複数回答で選んでもらったところ、関わり方がわからずに困ったという回答が最多であり、地域住民の苦情の対応に困った、相手から問題を否認されて困ったという回答が次いだ。具体的な問題も地域によって割合が異なり、全般的には宮城県の支援者で高い割合になる傾向がみられた。

#### 12. アルコール関連問題の介入、予防に役立ったこと

最後にアルコール関連問題の介入や予防に役立ったことについての意見を尋ねた。無回答が最多だったことから、有効と感じられる手段が限られていることが示唆されるが、研修を挙げる割合が最も高く、地域の関係者間の連携、専門家のアドバイスが次いだ。

#### D. 考察

震災後のアルコール関連問題の実態や支援者の対応についてアンケートを用いて検討した。県によっても異なるが、支援者の意見としては、アルコール問題が増えたという印象が少なくない。また、その対応については経験の乏しさのため困難に感じられている。これらの結果を災害後のアルコール関連問題への対応や予防について検討する材料としたい。

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表(国内)

1) 藤田さかえ、佐久間寛之、松下幸生. 東日本大震災被災地におけるアルコール関連問題・嗜癮行動に関する実態調査報告. 平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会、2015年10月12日、神戸国際会議場

2) 上野文彦、佐久間寛之、藤田さかえ、木村 充、瀧村 剛、松下幸生、樋口 進. 被災地におけるアルコール関連問題・嗜癮行動の実態調査. 平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会、2015年10月12日、神戸国際会議場

3) 瀧村 剛、松下幸生、佐久間寛之、中山秀紀、湯本洋介、遠山朋海、真栄里 仁、岩原千絵、木村 充、樋口 進. 東日本大震災被災後の被災地消防団におけるアルコール関連問題の変化. 平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会、2015年10月12日、神

戸国際会議場

3. 学会発表（国際）  
なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他： 特記事項なし

表1 支援者の活動地域の分布

県	市町村	人数	県内割合 (%)	全体割合 (%)
岩手県	一関市	2	0.7	37.6
	釜石市	41	14.4	
	宮古市	23	8.1	
	住田町	16	5.6	
	大船渡市および陸前高田市	42	14.8	
	大船渡市	111	39.1	
	陸前高田市	43	15.1	
	記載なし	6	2.1	
	岩手県合計	284	100	
宮城県	塩釜市	13	3.2	54.1
	岩沼市	8	2.0	
	気仙沼市	52	12.7	
	山元町	4	1.0	
	七ヶ浜町	1	0.2	
	女川町	19	4.6	
	松島市	1	0.2	
	石巻市	88	21.5	
	仙台市	50	12.2	
	多賀城市	12	2.9	
	東松島市	45	11.0	
	南三陸町	16	3.9	
	名取市	25	6.1	
	記載なし	75	18.3	
	宮城県合計	409	100	
福島県	いわき市	16	25.4	8.3
	会津坂下町	2	3.2	
	会津若松市	5	7.9	
	喜多方市	6	9.5	
	郡山市	2	3.2	
	西会津町	5	7.9	
	大熊町	2	3.2	
	湯川村	1	1.6	
	南会津町	1	1.6	
	富岡町	1	1.6	
	福島市	2	3.2	
	北塩原村	1	1.6	
	記載なし	19	30.2	
		福島県合計	63	
合 計		756		100.0

表2 回答者の職種（県別分布）

職種	岩手県	宮城県	福島県	合計 (%)
保健師	58	125	20	203 (26.9)
精神保健福祉士	5	40	6	51 (6.8)
心理士	5	10	3	18 (2.4)
医師	2	5	0	7 (0.9)
社会福祉士	8	15	3	26 (3.4)
介護支援専門員	17	18	3	38 (5.0)
生活支援相談員	52	58	5	115 (15.2)
作業療法士	1	2	0	3 (0.4)
看護師	22	44	8	74 (9.8)
薬剤師	8	0	0	8 (1.1)
その他	50	79	12	141 (18.7)
不明	8	4	0	12 (1.6)
複数あり	48	9	3	60 (7.9)

表3 勤務年数の分布（県別）

勤務年数	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%) *
1年未満	18 (6.5)	11 (2.8)	1 (1.8)	30 (4.1)
1年以上3年未満	49 (17.8)	44 (11.1)	8 (14.0)	101 (13.9)
3年以上5年未満	85 (30.9)	123 (31.1)	11 (19.3)	219 (30.1)
5年以上10年未満	30 (10.9)	42 (10.6)	9 (15.8)	81 (11.1)
10年以上	93 (33.8)	175 (44.3)	28 (49.1)	296 (40.7)
無回答	9	14	6	29
平均年数	9.6 ± 10.4	11.5 ± 10.5	13.1 ± 11.3	10.9 ± 10.5

\*無回答を除いた割合

表4 被災地での勤務開始時期

勤務年数	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
震災前	40 (14.1)	70 (17.1)	10 (15.9)	120 (15.9)
1年未満	107 (37.7)	166 (40.6)	8 (12.7)	281 (37.2)
1年以上2年未満	45 (15.9)	59 (14.4)	9 (14.3)	113 (15.0)
2年以上3年未満	29 (10.2)	36 (8.8)	6 (9.5)	71 (9.4)
3年以上	37 (13.0)	54 (13.2)	7 (11.1)	98 (13.0)
無回答	26 (9.2)	24 (5.9)	23 (36.5)	73 (9.7)

表5 アルコール関連問題の増減に関する意見

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
震災発生から避難所全面閉鎖までの期間				
増えた	46 (16.3)	60 (15.8)	6 (10.7)	112 (15.6)
変わらない	102 (36.0)	60 (15.8)	8 (14.3)	170 (23.6)
減った	26 (9.2)	26 (6.8)	3 (5.4)	55 (7.7)
わからない	109 (38.5)	234 (61.6)	39 (69.6)	382 (53.1)
避難所閉鎖から震災1年後までの期間				
増えた	63 (22.3)	125 (33.2)	7 (12.5)	195 (27.3)
変わらない	110 (38.9)	57 (15.2)	15 (26.8)	182 (25.5)
減った	9 (3.2)	9 (2.4)	1 (1.8)	19 (2.7)
わからない	101 (35.7)	185 (49.2)	33 (58.9)	319 (44.6)
震災1年後からアンケート調査時点までの期間				
増えた	75 (26.4)	181 (45.7)	19 (33.3)	275 (37.3)
変わらない	117 (41.2)	86 (21.7)	15 (26.3)	218 (29.6)
減った	22 (7.8)	15 (3.8)	2 (3.5)	39 (5.3)
わからない	70 (24.7)	114 (28.8)	21 (36.8)	205 (27.8)

表6 アルコール関連問題が増えた理由に関する意見

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
アルコール関連問題の増減 <sup>††</sup>				
増えた	113 (39.8)	228 (55.8)	23 (36.5)	364 (48.2)
増えた以外の回答	171 (60.2)	181 (44.3)	40 (63.5)	392 (51.9)
震災での辛い体験	55 (48.7)	109 (47.8)	7 (30.4)	171 (47.0)
震災による生活や住環境の変化	91 (80.5)	195 (85.5)	20 (87.0)	306 (84.1)
補償金などの収入 <sup>*</sup>	20 (17.7)	65 (28.5)	12 (52.2)	97 (26.7)
震災前からの問題の再燃・悪化 <sup>**</sup>	60 (53.1)	154 (67.5)	15 (65.2)	229 (62.9)
周囲の見方が厳しくなったから <sup>†</sup>	30 (26.6)	38 (16.7)	1 (4.4)	69 (19.0)

<sup>††</sup>  $\chi^2 = 20.8, p < 0.0001$

<sup>\*</sup>  $\chi^2 = 12.7, p = 0.002$

<sup>\*\*</sup>  $\chi^2 = 6.8, p = 0.033$

<sup>†</sup>  $\chi^2 = 8.2, p = 0.017$

表7 アルコール関連問題の内容に関する意見

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
震災発生から避難所全面閉鎖までの期間				
酔って騒ぐ	49 (17.3)	85 (20.8)	8 (12.7)	142 (18.8)
酔ってケンカ	35 (12.3)	67 (16.4)	4 (6.4)	106 (14.0)
朝、昼からの飲酒	90 (31.7)	120 (29.3)	18 (28.6)	228 (30.2)
酔って転倒・ケガ	22 (7.8)	45 (11.0)	4 (6.4)	71 (9.4)
健康への影響	72 (24.7)	97 (23.7)	12 (19.1)	179 (23.7)
所構わず寝てしまう	10 (3.5)	13 (3.2)	0	23 (3.0)
経済問題	18 (6.3)	38 (9.3)	5 (7.9)	61 (8.1)
家族とのトラブル	47 (16.6)	71 (17.4)	14 (22.2)	132 (17.5)
その他	21 (7.4)	22 (5.4)	3 (4.8)	46 (6.1)
避難所閉鎖から震災1年後までの期間				
酔って騒ぐ	53 (18.7)	74 (18.1)	4 (6.4)	131 (17.3)
酔ってケンカ**	32 (11.3)	66 (16.1)	2 (3.2)	100 (13.2)
朝、昼からの飲酒*	99 (34.9)	170 (41.6)	17 (27.0)	286 (37.8)
酔って転倒・ケガ	24 (8.5)	50 (12.2)	4 (6.4)	78 (10.3)
健康への影響	84 (29.6)	139 (34.0)	13 (20.6)	236 (31.2)
所構わず寝てしまう	11 (3.9)	19 (4.7)	0	30 (4.0)
経済問題	27 (9.5)	56 (13.7)	3 (4.8)	86 (11.4)
家族とのトラブル	66 (23.2)	97 (23.7)	14 (22.2)	177 (23.4)
その他	18 (6.3)	13 (3.2)	4 (6.4)	35 (4.6)
震災1年後からアンケート調査時点までの期間				
酔って騒ぐ**	56 (19.7)	96 (23.5)	5 (7.9)	157 (20.8)
酔ってケンカ**	29 (10.2)	72 (17.6)	3 (4.8)	104 (13.8)
朝、昼からの飲酒***	122 (43.0)	241 (58.9)	23 (36.5)	386 (51.1)
酔って転倒・ケガ**	34 (12.0)	85 (20.8)	5 (7.9)	124 (16.4)
健康への影響***	118 (41.6)	261 (63.8)	30 (47.6)	409 (54.1)
所構わず寝てしまう*	13 (4.6)	30 (7.3)	0	43 (5.7)
経済問題***	40 (14.1)	131 (32.0)	11 (17.5)	182 (24.1)
家族とのトラブル*	82 (28.9)	162 (39.6)	19 (30.2)	263 (34.8)
その他	26 (9.2)	24 (5.9)	2 (3.2)	52 (6.9)

\*p &lt; 0.05, \*\*p &lt; 0.01, \*\*\*p &lt; 0.0001

表8 アルコール関連問題への対応で困った経験の有無

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
対応で困った経験の有無**				
あった	127 (49.8)	273 (76.0)	39 (78.0)	439 (66.1)
なかった	128 (50.2)	86 (24.0)	11 (22.0)	225 (33.9)
どのように関わっていいかわからなかった				
周囲の理解が乏しかった**	67 (52.8)	173 (63.4)	26 (66.7)	266 (60.6)
介入するツールがなかった	33 (26.0)	18 (6.6)	1 (2.6)	52 (11.9)
相手から問題を否認されて困った	27 (21.3)	36 (13.2)	9 (23.1)	72 (16.4)
暴言・暴力への対応に困った	36 (28.4)	108 (39.6)	14 (35.9)	158 (36.0)
地域住民の苦情の対応に困った*	27 (21.3)	51 (18.7)	5 (12.8)	83 (18.9)
その他	39 (30.7)	112 (41.0)	6 (15.4)	157 (35.8)
その他	23 (18.1)	51 (18.7)	4 (10.3)	78 (17.8)

\*p < 0.01, \*\*p < 0.0001

表9 アルコール関連問題以外の精神的問題の増加

回答者数	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
	100 名	232 名	39 名	371 名
<b>震災発生から避難所全面閉鎖までの期間</b>				
うつ病・うつ状態	37 (37.8)	65 (37.4)	11 (40.7)	113 (37.8)
不眠	59 (60.2)	114 (65.5)	13 (48.2)	186 (62.2)
不安・パニック*	41 (41.8)	91 (52.3)	7 (25.9)	139 (46.5)
認知症	20 (20.4)	38 (21.8)	5 (18.5)	63 (21.1)
薬物乱用	0	1 (0.6)	1 (3.7)	2 (0.7)
喫煙	6 (6.1)	10 (5.8)	1 (3.7)	17 (5.7)
パチンコなどの賭け事	11 (11.2)	14 (8.1)	3 (11.1)	28 (9.4)
持病 (精神疾患) の悪化	26 (26.5)	65 (37.4)	12 (44.4)	103 (34.5)
知的障害	4 (4.1)	9 (5.2)	1 (3.7)	14 (4.7)
PTSD	24 (24.5)	51 (29.3)	2 (7.4)	77 (25.8)
<b>避難所閉鎖から震災1年後までの期間</b>				
うつ病・うつ状態	52 (53.1)	101 (55.8)	12 (44.4)	165 (53.9)
不眠	56 (57.1)	104 (57.5)	11 (40.7)	171 (55.9)
不安・パニック	36 (36.7)	79 (43.7)	6 (22.2)	121 (39.5)
認知症	26 (26.5)	47 (26.0)	4 (14.8)	77 (25.2)
薬物乱用	0	2 (1.1)	1 (3.7)	3 (1.0)
喫煙	4 (4.1)	17 (9.4)	1 (3.7)	22 (7.2)
パチンコなどの賭け事	15 (15.3)	28 (15.5)	7 (25.9)	50 (16.3)
持病 (精神疾患) の悪化	25 (25.5)	49 (27.1)	11 (40.7)	85 (27.8)
知的障害	4 (4.1)	7 (3.9)	0	11 (3.6)
PTSD**	23 (23.5)	56 (30.9)	1 (3.7)	80 (26.1)
<b>震災1年後からアンケート調査時点までの期間</b>				
うつ病・うつ状態	62 (62.6)	147 (71.7)	22 (64.7)	231 (68.3)
不眠	56 (56.6)	133 (64.9)	17 (50.0)	206 (61.0)
不安・パニック	35 (35.4)	91 (44.4)	9 (26.5)	135 (39.9)
認知症	42 (42.4)	89 (43.4)	12 (35.3)	143 (42.3)
薬物乱用	2 (2.0)	5 (2.4)	2 (5.9)	9 (2.7)
喫煙	4 (4.0)	20 (9.8)	1 (2.9)	25 (7.4)
パチンコなどの賭け事***	7 (7.1)	45 (22.0)	11 (32.4)	63 (18.6)
持病 (精神疾患) の悪化	32 (32.3)	72 (35.1)	14 (41.2)	118 (34.9)
知的障害	4 (4.0)	11 (5.4)	2 (5.9)	17 (5.0)
PTSD	23 (23.2)	65 (31.7)	6 (17.7)	94 (27.8)

\*p < 0.05, \*\*p < 0.01, \*\*\*p < 0.001

表 10 避難所での飲酒に関する意見

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
避難所にいる間は飲酒すべきではない	77 (30.9)	119 (35.7)	10 (22.2)	206 (32.9)
避難所の中では飲酒すべきではないが、避難所の外では認めるべき	75 (30.1)	123 (36.9)	14 (31.1)	212 (33.8)
避難所の中でも問題を起こさなければ飲酒を認めるべき	65 (26.1)	67 (20.1)	18 (40.0)	150 (23.9)
その他	32 (12.9)	24 (7.2)	3 (6.7)	59 (9.4)

表 11 避難所へのアルコール飲料の持ち込みに関する意見

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
どのようなものでもアルコール飲料は避難所に持ち込むべきではない	81 (31.4)	138 (40.2)	16 (35.6)	235 (36.4)
支援物資としては持ち込むべきではないが、個人的な土産なら認められる	75 (29.1)	112 (32.7)	16 (35.6)	203 (31.4)
どのような形であれアルコール飲料を持ち込んで良い	9 (3.5)	9 (2.6)	2 (4.4)	20 (3.1)
どちらとも言えない	80 (31.0)	72 (21.0)	10 (22.2)	162 (25.1)
その他	13 (5.0)	12 (3.5)	1 (2.2)	26 (4.0)

表 12 仮設住宅でのアルコール関連問題の有無とその内容 (複数回答)

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
仮設住宅でアルコール問題について相談を受けた経験の有無***				
あった	113 (44.0)	248 (71.7)	19 (48.7)	380 (59.2)
なかった	144 (56.0)	98 (28.3)	20 (51.3)	262 (40.8)
相談された問題の内容				
酔って騒ぐ	50 (19.1)	90 (25.8)	6 (15.0)	146 (22.4)
酔って他人とケンカ**	33 (12.8)	73 (20.9)	1 (2.6)	107 (16.6)
朝や昼間からの飲酒***	76 (29.0)	193 (54.4)	14 (35.0)	283 (43.1)
酔って転倒・ケガ**	32 (12.4)	72 (20.6)	3 (7.7)	107 (16.5)
飲酒による健康への影響***	65 (24.9)	173 (48.6)	18 (41.9)	256 (38.8)
所構わず寝てしまう*	9 (3.5)	28 (8.0)	0	37 (5.7)
飲酒による経済問題***	15 (5.8)	86 (24.5)	2 (5.0)	103 (15.9)
飲酒による家族とのトラブル	54 (20.9)	95 (27.0)	10 (24.4)	159 (24.4)
その他	19 (7.3)	21 (6.1)	2 (5.1)	42 (6.5)

\*p &lt; 0.05, \*\*p &lt; 0.01, \*\*\*p &lt; 0.0001

表 13 仮設住宅のアルコール関連の相談で困ったこと（複数回答）

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
仮設住宅のアルコール問題の相談で困ったことの有無**				
あった	113 (39.8)	259 (63.3)	22 (34.9)	394 (52.1)
なかった	171 (60.2)	150 (36.7)	41 (65.1)	362 (47.9)
具体的な問題				
どのように関わってよいかわからなくて困った**	60 (21.1)	143 (35.0)	11 (17.5)	214 (28.3)
保健所の中でもアルコール関連問題への理解が乏しくて困った*	1 (0.4)	24 (5.9)	3 (4.5)	28 (3.7)
介入のツールがなくて困った	18 (6.3)	35 (8.6)	5 (7.9)	58 (7.7)
相手から問題を否認されて困った*	35 (12.3)	99 (24.2)	10 (15.9)	144 (19.1)
飲酒した上での暴言・暴力にどのように対処してよいかわからなかった	19 (6.7)	46 (11.3)	3 (4.8)	68 (9.0)
地域の住民の苦情の対応に困った**	37 (13.0)	114 (27.9)	7 (11.1)	158 (20.9)
その他	18 (6.3)	39 (9.5)	5 (7.9)	62 (8.2)

\*p < 0.001, \*\*p < 0.0001

表 14 アルコール関連問題の介入、予防に役立ったこと

	岩手県 (%)	宮城県 (%)	福島県 (%)	合計 (%)
アルコール問題に関する研修	39 (13.7)	73 (17.9)	19 (30.2)	131 (17.3)
飲酒日記などのツール	4 (1.4)	6 (1.5)	0	10 (1.3)
専門家のアドバイス	37 (13.0)	60 (14.7)	2 (3.2)	99 (13.1)
インターネットで得た情報	5 (1.8)	5 (1.2)	0	10 (1.3)
書籍から得た情報	1 (0.4)	0	0	1 (1.3)
地域の関係者間の連携	41 (14.4)	57 (13.9)	9 (14.3)	107 (14.2)
特にない	59 (20.8)	17 (4.2)	2 (3.2)	78 (10.3)
その他	3 (1.1)	5 (1.2)	1 (1.6)	9 (1.2)
無回答	95 (33.5)	186 (45.5)	30 (47.6)	311 (41.1)

厚生労働省研究班「災害時の精神保健医療に関する研究」  
アンケートにご協力をお願い

被災地での支援活動お疲れ様です。

当研究班は災害時の精神保健に関するガイドラインを作成することを目的としておりますが、さまざまな精神的問題の中でもアルコール関連問題に関してアンケート調査を行って、災害時にどのようにアルコール問題へ対応、予防するかという点についてガイドラインを作成することを目指しております。

このアンケートはそのための資料とさせていただくために実施するもので、地域住民の公衆衛生に中心的な役割を果たされている支援担当の方々を対象にご協力をお願いするものです。

お忙しいところを誠に恐れ入りますが、今後の災害発生時の参考とするためにご協力のほど、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

ご協力いただけます場合には、下記にご回答のほど宜しくお願ひいたします。

厚生労働省研究班「災害時の精神保健医療に関する研究」  
(研究代表者 国立精神・神経医療研究センター 金 吉晴)  
独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター  
調査責任者 松下 幸生

まず、あなた自身のことについてお答えください。

性別： 男性 ・ 女性

職種： 保健師 ・ 精神保健福祉士 ・ 臨床心理士 ・ 医師

社会福祉士 ・ ケアマネージャー ・ 生活支援相談員 ・ 作業療法士

看護師 ・ 薬剤師 ・ 介護支援相談員 ・ その他 ( \_\_\_\_\_ )

上記職種の勤務年数： ( \_\_\_\_\_ ) 年間

担当地域： 岩手県・宮城県・福島県 ( \_\_\_\_\_ ) 市・町

被災地での勤務は： 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 から

・ 災害とアルコール関連問題の変化に関する質問

当てはまる番号に でお答えください。“複数回答可” 以外はどれか一つをお選びください。

問1．次の各期間でアルコールに関連した問題の件数は震災の前と比べて変化しましたか。

- ・ 震災発生～避難所全面閉鎖までの間：1) 増えた、2) 変わらない、3) 減った、4) わからない
- ・ 避難所全面閉鎖～震災1年後の頃までの間：1) 増えた、2) 変わらない、3) 減った、4) わからない
- ・ 震災1年後～現在までの間：1) 増えた、2) 変わらない、3) 減った、4) わからない

**問1でいずれかの時期に“増えた”と回答された方へ**

(“変わらない”または“減った”とご回答の方は問3へお進みください)

問2．増えた理由として多いものはどれだと思いますか(複数回答可)。

- 1) 震災での辛い体験
- 2) 震災による生活や住環境の変化(仮設住宅への入居や仕事を失うことなど)
- 3) 補償金などでお金が入ったから
- 4) 震災前からのアルコールの問題の再燃・悪化
- 5) 周囲の人たちが飲酒や酩酊に厳しくなった
- 6) その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

問3．震災後にアルコールに関連した問題は具体的にはどのような問題でしたか。

- ・ 震災発生～避難所全面閉鎖までの間(複数回答可)
  - 1) 酔って騒ぐ、
  - 2) 酔って他人と喧嘩、
  - 3) 朝や昼間からの飲酒
  - 4) 酔って転倒・ケガ、
  - 5) 飲酒による健康への影響、
  - 6) 所構わず寝てしまう
  - 7) 飲酒による経済問題、
  - 8) 飲酒による家族とのトラブル
  - 9) その他(具体的に \_\_\_\_\_ )
- ・ 避難所全面閉鎖～震災1年後の頃までの間(複数回答可)
  - 1) 酔って騒ぐ、
  - 2) 酔って他人と喧嘩、
  - 3) 朝や昼間からの飲酒
  - 4) 酔って転倒・ケガ、
  - 5) 飲酒による健康への影響、
  - 6) 所構わず寝てしまう
  - 7) 飲酒による経済問題、
  - 8) 飲酒による家族とのトラブル
  - 9) その他(具体的に \_\_\_\_\_ )
- ・ 震災1年後～現在までの間(複数回答可)
  - 1) 酔って騒ぐ、
  - 2) 酔って他人と喧嘩、
  - 3) 朝や昼間からの飲酒
  - 4) 酔って転倒・ケガ、
  - 5) 飲酒による健康への影響、
  - 6) 所構わず寝てしまう
  - 7) 飲酒による経済問題、
  - 8) 飲酒による家族とのトラブル
  - 9) その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

問4．アルコールに関連した問題への対応で困った経験はありましたか（震災発生～現在までの間）

- 1) あった → 問5へお進みください  
2) なかった → 問6へお進みください

（問4で1）あったと回答された方へ）

問5．アルコール問題についてどのような点で困りましたか（複数回答可）

- 1) どのように関わったらよいかわからなかった  
2) 保健所の中でもアルコール関連問題への理解が乏しかった  
3) 介入するツールがなかった  
4) 相手から問題を否認されて困った  
5) 飲酒した上での暴言・暴力にどのように対処してよいかわからなかった  
6) 地域の住民からの苦情の対応に困った  
7) その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

問6．次にアルコール以外の問題についてお答えください。

各期間で震災前より増えたと感じられる精神的な問題はどれでしたか。

- 震災発生～避難所全面閉鎖までの間（複数回答可）

1) うつ病・うつ状態、2) 不眠、3) 不安・パニック、4) 認知症、5) 薬物乱用、  
6) 喫煙、7) パチンコなどの賭け事、8) 持病（精神疾患）の悪化、9) 知的障害  
10) PTSD、11) わからない
  - 避難所全面閉鎖～震災1年後の頃までの間（複数回答可）

1) うつ病・うつ状態、2) 不眠、3) 不安・パニック、4) 認知症、5) 薬物乱用、  
6) 喫煙、7) パチンコなどの賭け事、8) 持病（精神疾患）の悪化、9) 知的障害  
10) PTSD、11) わからない
  - 震災1年後～現在までの間（複数回答可）

1) うつ病・うつ状態、2) 不眠、3) 不安・パニック、4) 認知症、5) 薬物乱用、  
6) 喫煙、7) パチンコなどの賭け事、8) 持病（精神疾患）の悪化、9) 知的障害  
10) PTSD、11) わからない
- ・ アルコール関連問題への対策・予防に関する質問

問7．避難所での飲酒についてのご意見をお答えください（どれか一つ）

- 1) 避難所にいる間は飲酒すべきではない  
2) 避難所の中は飲酒すべきではないが、避難所の外は認めるべき、  
3) 避難所の中でも問題を起こさなければ飲酒も認めるべき  
4) その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

問8．避難所への支援物資や土産などでアルコール飲料を持ち込むことについてのご意見をお答えください（どれか一つ）

- 1) どのようなものでもアルコール飲料は避難所に持ち込むべきではない。  
2) 支援物資としては持ち込むべきではないが、個人的な土産なら認められる。  
3) どのような形であれアルコール飲料を持ち込んでも良い  
4) どちらとも言えない

5) その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

問9. 仮設住宅でのアルコール問題について相談を受けた経験はありますか。

- 1) あった \_\_\_\_\_ → 問10へお進みください  
2) なかった \_\_\_\_\_ → 問12へお進みください

問10. 相談されたアルコール問題はどのような内容でしたか。

- 1) 酔って騒ぐ  
2) 酔って他人と喧嘩  
3) 朝や昼間からの飲酒、  
4) 酔って転倒・ケガ  
5) 飲酒による健康への影響  
6) 所構わず寝てしまう  
7) 飲酒による経済問題  
8) 飲酒による家族とのトラブル  
9) その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

問11. 仮設住宅のアルコール関連の相談で困ったことはありましたか(複数回答可)。

- 1) 特に困ったことはない  
2) どのように関わったらよいかわからなくて困った  
3) 保健所の中でもアルコール関連問題への理解が乏しくて困った  
4) 介入のツールがなくて困った  
5) 相手から問題を否認されて困った  
6) 飲酒した上での暴言・暴力にどのように対処してよいかわからなかった  
7) 地域の住民からの苦情の対応に困った  
8) その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

問12. アルコール関連問題の介入、予防にどのようなことが役に立ちましたか(どれか一つをお選びください)。

- 1) アルコールの問題に関する研修  
2) 飲酒日記などのツール  
3) 専門家のアドバイス  
4) インターネットで得た情報  
5) 書籍から得た情報  
6) 地域の関係者間の連携  
7) 特にない  
8) その他(具体的に \_\_\_\_\_ )

質問はこれで終わりです。お疲れ様でした。  
ご協力いただき、どうもありがとうございました。



